



プロジェクト名称

石垣島を元気にするプロジェクト

プロジェクト活動概要

本プロジェクトは沖縄県石垣島のサンゴ礁保全を目的に活動している団体である。石垣島は世界有数のサンゴの生息地である。しかし、現在石垣島のサンゴは白化・死滅の危機に直面している。これらが起こる原因としては地球温暖化、赤土流出、オニヒトデによる食害、生活排水など様々なものが挙げられる。この中でも、私たちのプロジェクトは赤土流出に着目して活動に取り組んでいる。活動の内容としては、サンゴ礁保全イベントの開催、小学校への環境教育、地産地消マップの作成、ひまわりを使った緑肥の活動などである。これらの活動を通して、石垣島の島民の方々に自発的にサンゴ礁保全を行ってもらえるようこれからも活動を継続させてゆく。

活動状況報告&活動写真など 活動期間：2015年6月20日～9月30日

6月

学生プロジェクトの申請を受け、本年度の活動方針や年間計画、予算書を作成した。新入生への情報の引き継ぎなども行い、本格的に13人での活動体制となった。

7月

7月では主に、新地産地消マップの作成、ひまわりによる緑肥活動、小学校への教育、の3つのテーマを進めた。

「新地産地消マップ」では、昨年度3月に作成した試作版の修正を行った。いただいたアドバイスや意見から、以前のサンゴ礁保全を促すマップから、赤土流出防止対策農家を応援するマップとして、目的、内容、デザインのすべてを一新した。マップには新たに使用者が掲載農家や食堂への応援コメントを書く欄をもうけ、空港や各食堂に回収ボックスを設置し、回収できるようにした。また、夏の本配布に向けて、印刷費の見積もりも同時に行った。

ひまわりによる緑肥活動では、昨年度に引き続きサンゴウィークでのイベントの企画を行った。緑肥を島に広げていくために、昨年度行った新川地域以外での候補地を検討した。

小学校への教育では、来年の2月に行う予定であるイベントの企画を行った。今年度は、今まで行ってきた真喜良小学校に加え、新たな小学校へも提案できるように3つの企画を考案した。ひまわりを使った緑肥の種まき、体験型ロールプレイ、料理教室の3つである。

8月

8月の活動では主に、8月末からの夏期現地調査へ向けてのミーティング、渡航にあたっての各関係者との連絡、夏期現地調査を行った。

ミーティングでは、今年度の夏期現地調査で行う活動とスケジュールについて話し合った。また、活動で使用する備品リストの作成を行った。

今年度の夏期現地調査は8月27日から9月14日までの期間で行った。夏期現地調査で行った主な活動としては、お世話になっている島民の皆さんへの挨拶回り、新地産地消マップの配布、マップ回収BOXの設置、石川テレビ取材、小学校への環境教育の提案、来年のサンゴウィークイベントの企画提案、



緑肥調査である。8月27日から8月31日までの期間は、挨拶回りと新地産地消マップの配布の活動を中心に行った。

新地産地消マップとは、私たちが以前作成、配布を行った地産地消マップの改良版であり、以前はマップの利用者に島で野菜を買ってもらい、その野菜を島の食堂に持って行って調理してもらうことで結果的に地産地消を行ってもらうというシステムが組み込まれていたが、今回からはそのシステムを撤廃し、マップの利用者に農家さんへの応援メッセージを書いてもらいそのメッセージを私たちが回収BOXで回収し農家さんに届けるという新システムを導入した。このシステムを機能させることで、農家の収益の向上のほか農家の野菜づくりへのモチベーション向上などといった効果を期待する。

今年度の夏期現地調査ではこの新地産地消マップを2000部印刷し、1300部を石垣島で配布した。

9月

9月の活動では主に、夏期現地調査、夏期現地調査の振り返り、新役職の決定、プロジェクトの今後の方針についての話し合いの活動を行った。

9月1日から9月14日までの期間の夏期現地調査では、石川テレビ取材、小学校への環境教育の提案、来年のサンゴウィークイベントの企画提案、緑肥調査の活動を中心に行った。また、8月に引き続き新地産地消マップの配布と回収BOXの設置の活動も平行して行った。

石川テレビ取材では、環境に関連のある活動を行っている大学生を取り上げたいということで、私たちが普段石垣島で行っている活動を密着取材して頂いた。この番組は石川県内で放送される予定である。小学校への環境教育の提案では、石垣島により広くひまわり緑肥を普及させたいという理由から白保小学校という新しい地域の小学校へ環境教育の提案を試みた。結果として、白保小学校への環境教育の実施が決定した。白保小学校は石垣島でもサンゴに関する授業に力を入れている小学校であり、これまでに行ってきた授業内容よりも高いレベルの授業を行えるのではないかと期待する。

来年のサンゴウィークイベントの企画提案では、石垣市観光協会の皆さんや新しい農家さんへひまわりを使った緑肥のイベントを提案する活動を行った。

来年のサンゴウィークイベントは、今年のサンゴウィークイベントと同様、石垣島の真喜良で行うことになった。今回のイベントは私たちが農家さんに提案する形で成立したのではなく、農家さんの方から依頼される形で成立した。このことから、私たちの目標のひとつである島民による自発的なサンゴ礁保全に徐々にではあるが近づけてきたのではないかと考える。

緑肥調査は、ひまわり緑肥の規模拡大を目的として行った。調査内容は、これまでにひまわりを使った緑肥を行ったことがあるか、またこれまでに赤土流出防止対策としてどのような事を行ってきたかを農家さんにヒアリングするというものだった。今回調査をした地域は石垣島の伊原間と白保である。伊原間では農家を見つけることが出来ず満足いく結果は得られなかった。一方白保では、7人もの農家さんと直接話をする事ができ、今後のひまわり緑肥の普及のヒントを得ることが出来た。また、そのうちの1人の農家さんからはひまわりを植えさせてもらう許可を頂いた。今後、プロジェクトの活動に合わせて連絡を取っていく予定である。

夏期現地調査終了後から10月になるまでの期間は、夏期現地調査の振り返りをメンバー全員で行い、今後のイベントや環境教育をどのように進めていくか、新地産地消マップの回収方法、回収率を向上させるにはどうしたら良いのか等を話し合った。新役職も決定し、10月からは2年生が主体となって活動を行っていく予定である。代替わりに伴って、今後のプロジェクトの方針を現在検討中である。



今後の活動計画、目標、意気込みなど

【今後の活動計画】

- 10月：3年生引退、1・2年を中心に活動
 - プロジェクトの方針決め（今後プロジェクトはどうあるべきか）
 - 助成金探し
 - 11月：サンゴウィークでのイベントの企画、具体化（種まきイベントを実施予定）
 - 地産地消マップの回収・集計方法の具体化
 - ecocon（全国大学生環境活動コンテスト）の準備
 - 12月：環境教育の企画の具体化（テーマ：サンゴ礁保全と地産地消の関係）
 - 赤土流出防止実験の検討、協力者との話し合い（どのような実験を実施するか）
- ecocon 出場（12/26・27）
- 1月：春渡航に向けた準備

【意気込み】

今年度の夏季長期休暇中に石垣島へ渡航した際、島民や環境活動に従事していらっしゃる方々から、プロジェクトの活動に対して様々なアドバイスをいただいた。その中には、私たちが作成した地産地消マップの掲載内容でサンゴ礁保全に役立つのか、小学生への環境教育学習は現状のままで良いのか、などという私達の考えの至らなかつた点を本気で指摘していただいたものもあった。

そのように私達に対して真摯に向き合ってくれる方々がいることは、これからの活動に対しての意欲につながる。今まで配布してきた地産地消マップのシステムや目的を見直すと共に、掲載内容をより突き詰めて考えサンゴ礁保全に役立つものにする、小学生への環境教育学習を私達だからこそ可能なものにする、などの新たな課題を持ち、その解決に向けて活動をしようという意欲が持てた。

他にも、現在の石垣島のサンゴの現状や、農地からの赤土対策流出策に関する農家の負担やデメリットなども現地の方々へのヒアリングを通じて見えてきた。単純にサンゴ礁保全をしたいという自分達の一方的な考えだけでは、持続性のあるサンゴ礁の保全に至らないことも感じた。石垣島に年に数回しかいけない私達だが、プロジェクトメンバーで意見を出し合い、サンゴのためサンゴの海を必要としている人達のため活動を進めていこうと思う。

石垣島で学んだこと新たに得たものを今後を活かし、プロジェクトのさらなる発展と進歩に向けて励み、埼玉での活動と石垣島での活動をより充実させていこうと思う。